



地域資源を活用した 地域活性化支援調査

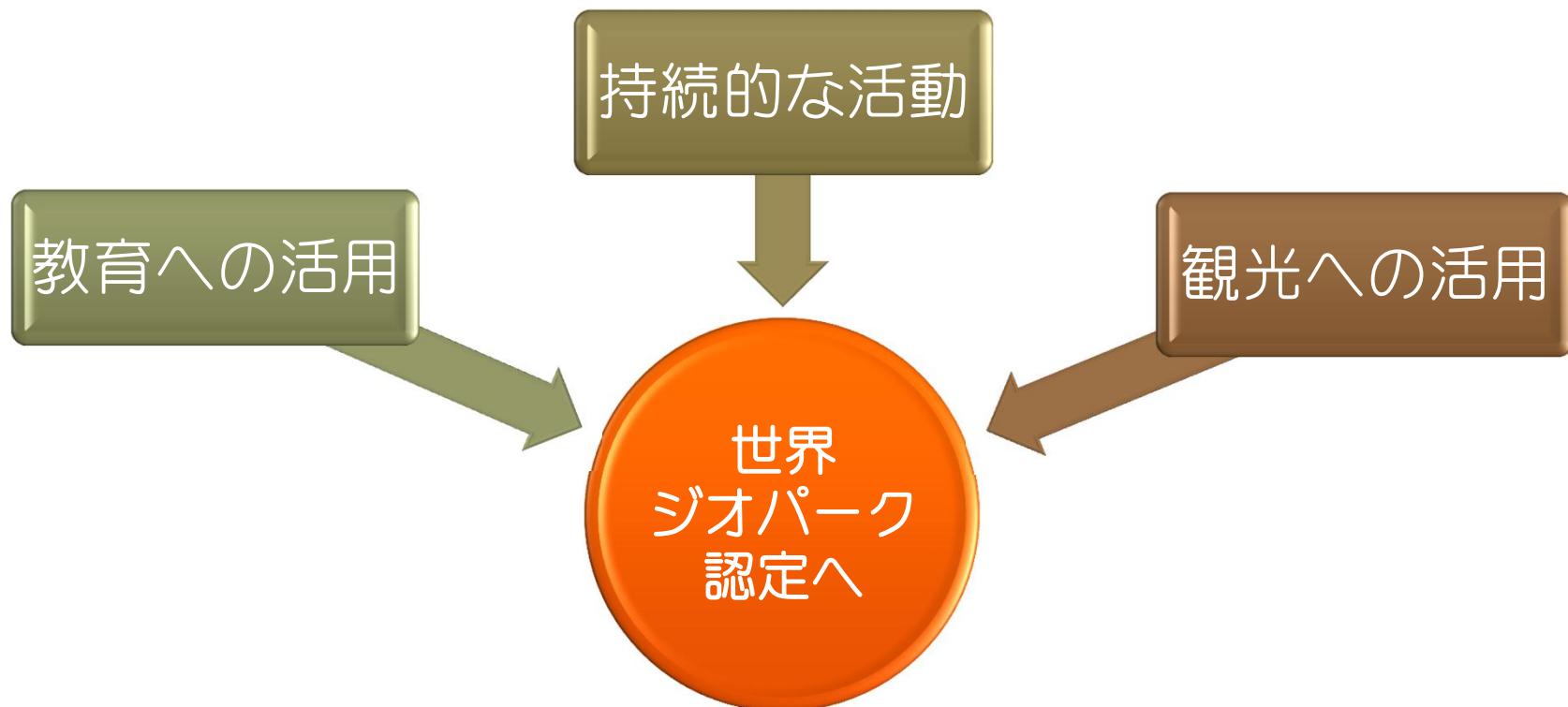
報告書【概要版】

平成27年3月

北海道開発局 室蘭開発建設部 地域振興対策室

はじめに

様似町の「アポイ岳ジオパーク」が、世界ジオパークの候補地として推薦され、平成27年秋の認定への期待が高まっている。世界ジオパークは、観光や教育での活用が重視され、また、世界認定後も4年に1度の再審査が行われるため、持続的な活動が求められている。このような背景のもと、積極的なジオパーク活動や資源活用、地域の活性化を支援するため、アポイ岳ジオパークの魅力、課題について、広く一般の方に分かりやすく発信するフォーラムを開催するとともにアンケート調査を実施し今後の方向性を探ることとした。



アポイ岳ジオパークフォーラムの概要①

平成27年2月28日（土）、札幌市の北洋大通センタービル4階セミナーホールにおいて、「アポイ岳ジオパークフォーラム ～アポイ岳の魅力を通じてジオパークの価値と可能性を探る～」を開催した。開催概要は以下のとおり。

と き 平成27年2月28日（土）

午後1時開会 午後4時開会

ところ 北洋大通センタービル4階 セミナーホール
（札幌市中央区大通西3丁目7番地）

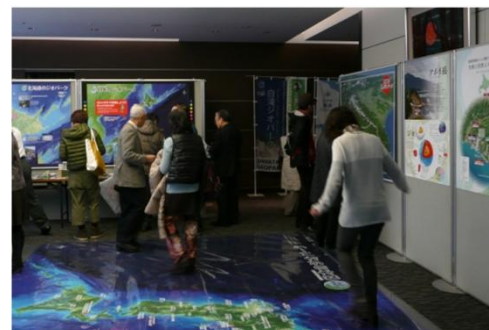
主 催 様似町、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、
北海道開発局室蘭開発建設部

共 催 北洋銀行

後 援 北海道日高振興局、特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク、
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、遠軽町・白滝ジオパーク推進協
議会、三笠ジオパーク推進協議会、とかち鹿追ジオパーク推進協議会、
北海道新幹線×nittan地域戦略会議



フォーラム開催の様子



ホール前ロビー 展示ブース

アポイ岳ジオパークフォーラム
～アポイ岳の魅力を通じてジオパークの価値と可能性を探る～

北海道の南端にある標高810mのアポイ岳。貴重な高山植物の宝庫として知られる様似町（日高管内）のシンボルです。そのアポイ岳を含む様似町は2014年、ユネスコが支援する大地の公園「世界ジオパーク」の国内候補地となり、今年の世界認定を目指して活動しています。今フォーラムでは、アポイ岳の魅力を通じて、大地と自然と人々のつながりを学び楽しむジオパークの価値と可能性を探ります。

と き 2月28日（土）
午後12時30分開場 午後1時開会 午後4時開会予定

ところ 北洋大通センタービル4階 セミナーホール
（札幌市中央区大通西3丁目7番地）
※北洋銀行本店営業部1階入り口のエレベーターよりお越しください。

定員150名 入場無料
（事前申込が必要です。要領をご覧ください）

チカホでは、
様似町特産品販売と
子どもジオ体験
コーナーもあるよ!!

講演1
演題 世界から見た日本のジオパークとアポイ岳
演者 日本ジオパーク委員会副委員長 中田 節也 氏
（東京大学地質研究所教授）
1952年富山県生まれ。雲仙普賢岳、三宅島、新燃岳などの国内の噴火に加え、最近ではインドネシアの火山噴火も研究。2008年から日本火山学会選出の日本ジオパーク委員会委員（現在、副委員長）。2011年から世界ジオパークネットワークのアドバイザーを務める。国際火山学会や日本火山学会の会長を歴任。

講演2
演題 日高の山とアポイの花々
演者 植物写真家 梅沢 俊 氏
1945年札幌生まれ。子どものころからチョウを求めて野山を駆け回り、高校時代は生物部に。1969年に北大農学部農業生物学科を卒業後は、フリーで北海道の野生植物を中心に写真撮影と執筆・研究活動を続ける。最近は、雨季のヒマラヤ地域に多い、高山植物の取材が続いている。「新版 北海道の高山植物」「山の花図鑑シリーズ」など、著書多数。

主催 様似町、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、北海道開発局室蘭開発建設部
共催 北洋銀行
後援 北海道日高振興局、特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、遠軽町・白滝ジオパーク推進協議会、三笠ジオパーク推進協議会、とかち鹿追ジオパーク推進協議会、北海道新幹線×nittan地域戦略会議
フォーラムに関するお問い合わせ：（株）北洋エージェンシー ジオパークフォーラム担当 TEL. 011-747-2223

リーフレット

アポイ岳ジオパークフォーラムの概要②

フォーラムは、日本ジオパーク委員会副委員長の中田節也氏と、植物写真家・梅沢俊氏による講演に続き、道内にあ
る5つの世界・日本ジオパークについて、ガイドの方々がそれぞれの魅力を力強く紹介した。

会場となった北洋大通ビル4階のセミナーホール前のロビーでは、各ジオパークを紹介するパネル展示やさまざまな
資料、特大の日本地図にジオパークの所在地をプロットした床マップも展示された。

なお、このフォーラムでは参加者を対象に、ジオパークに関連するアンケート調査も実施した。



坂下一幸・様似町長による主催者挨拶



フォーラム開催の様子



ロビーに設置された展示ブース



原俊哉・室蘭開発建設部長による閉会挨拶

プログラム

- 12:30 開 場
- 13:00 開 会 主催者挨拶
- 13:05 講演1 「世界から見た日本のジオパークとアポイ岳」
日本ジオパーク委員会副委員長 中田 節也 氏
(東京大学地震研究所教授)
- 14:00 講演2 「日高の山とアポイの花々」
植物写真家 梅沢 俊 氏
- 14:50 休 憩
- 15:05 道内ジオパークの紹介(アポイ岳をはじめ北海道にある5つの世界・
日本ジオパークそれぞれの特徴を、ガイドが写真でご紹介します。)
 - 洞爺湖有珠山ジオパーク(世界) ●白滝ジオパーク(日本)
 - 三笠ジオパーク(日本) ●とかち鹿追ジオパーク(日本)
 - アポイ岳ジオパーク(日本)
- 16:00 閉 会



カンランくん

カンラン君から生まれたカンランくん。
庭を飛び回って七色に輝きます。

アポイちゃん

太陽と夕暮の光をモチーフに、
アポイ岳のアイドルアポイちゃん。

講演 1

「世界から見た日本のジオパークとアポイ岳」

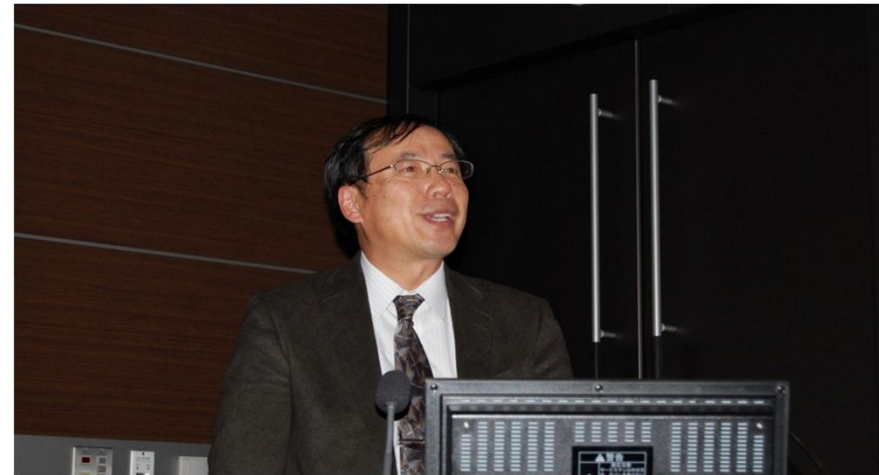
日本ジオパーク委員会副委員長 中田 節也 氏（東京大学地震研究所教授）

私たちの委員会では、ジオパークの定義として「地球科学的に重要な特徴を複数有し、その他の自然遺産・文化遺産を有する地域を有機的に結びつけて、保全や教育、ツーリズムに利用しながら、持続的な地域の発展を目指す仕組み」という言い方がよく使われます。

2004年にこの世界ジオパークというシステムができ、現在32カ国に111の世界ジオパークがあります。日本は2009年から世界ジオパークに参加し、最初に3つ、それから徐々に増えて今は7つです。

日本には、見るからにこれはすごいという、自然地学のしっかりとしたものがあるかという、少し弱い面があります。しかし、今度のアポイ岳は違うと思います。私はアポイ岳は地質遺産価値が極めて高く、今までの7つのジオパークとは異なる価値があると思っています。

今度の審査で、委員会が重視していることとして、①アイヌの文化を積極的に取り入れ始めているということ、②世界を意識した国際的な取組があること、③ビジターセンターが機能し始めていること、それから一番重要なこととして、④長い間若手科学研究者に配慮した研究支援活動が行われているということがあります。ジオパー



クの認定に向けた動きの以前から、支援センターでたくさんの方を育てるということを長年やってきているということです。ただ問題はあって、ジオパークの中で、保全をどうするか、かんらん岩の保全をどうするかということに、応えなくてはならないというのが課題だと思います。それから、地域の人とその保全についてどう思うか、地域の人が自分の言葉でジオパークのいいところを語ることができるか、自慢できるかということですね。それが大きなポイントだろうと思います。

講演2

「日高の山とアポイの花々」

植物写真家 梅沢 俊 氏

アポイ岳以外にも、日高の山にはチロロ岳などかんらん岩が露出している山があります。その南側にある山、一番とがっているのが戸蔭別岳です。さらにその奥にあるのが幌尻岳で、日高山脈の最高峰です。戸蔭別岳の、山肌に見える茶色い岩がかんらん岩です。この山には昔、氷河があったとされています。圏谷（カール）といって、氷河が山肌を削ってできた地形なのです。ですから、アポイ岳がジオパークに認定されるのもいいのですが、この氷河跡も一緒に認定されるとすごいなあと、私は思うのです。日高山脈は、人はあまり行かないし、花は多いし、魅力的な地域です。

これから花を見ていただきます。春からいきましょう。ゴールデンウィーク頃のアポイ岳は日高山脈の白い峰々を見ながら花が見られるという大変恵まれた場所です。

夏に咲くのがアポイアザミというアザミ、多分アポイの固有種です。総包片が非常に短いのが特徴です。こういう写真はなかなか撮れません。なぜならこういう形になる前にエゾシカに食べられてしまうことが多いので。注意してみると、総包片の真ん中に白い筋がピュッピュッと入っていて、腺体が見えているものがアポイア



ザミです。

戸蔭別岳のアザミは、よく見るとチシマアザミです。戸蔭別岳では、チシマアザミが標高2,000メートル近いところまで上がってきて、背丈が低くなっています。これが大雪山に行くと、違う種類に置き換わります。日高山脈では、別の種類に置き換わることはなく、チシマアザミの名前のままで呼ばれると、そういう状態です。

道内ジオパーク紹介① 【世界ジオパーク】 洞爺湖有珠山ジオパーク

火山マイスター 市毛 礼子さん



糸魚川、島原半島とともに日本で初めて世界ジオパークとして登録されたジオパーク

有珠山ロープウェイに乗って、洞爺湖有珠山ジオパークバーチャルツアーに出発します。標高差400メートルを約6分で登り、山頂駅から歩いて7分で火口原展望台に到着します。ここでは、1977から78年の山頂噴火でまだ噴煙を上げている火口を見ることができます。有珠山はこの100年の間に4回噴火しました。70年前に突然畑の中に出来た昭和山と、2000年にも噴火した有珠山、ここは、次の噴火に備えながら、変動する大地とともに生きる人々の生活を感じられる場所です。

道内ジオパーク紹介② 【日本ジオパーク】 白滝ジオパーク

遠軽町総務部ジオパーク推進課
ジオパーク担当主任 熊谷 誠さん



日本一の黒曜石の産地を擁するオホーツクのジオパーク。

今から、2日間の日程でオホーツク管内の白滝ジオパークをご紹介します。まずは、アウトライダーが実施している犬ぞりに乗って白滝に向かいましょう。

遠軽町白滝は、日本一の黒曜石産地。火山活動が生み出したいくつもの黒曜石露頭を見学することができます。また、3万年前の旧石器時代の遺跡から出土した石器を見学、世界に一つだけ、自分だけの石器づくり体験もお楽しみいただけます。

1日目の夜は遠軽町唯一のリゾートホテル・マウレ山荘にご宿泊いただき、翌日はぜひナキウサギが棲む風穴を訪ねてみてください。

道内ジオパーク紹介③ 【日本ジオパーク】 三笠ジオパーク

三笠市企画経済部商工観光課
地域開発・ジオパーク推進係主任主事 下村 圭さん



アンモナイトが泳いでいた1億年前からの時間旅行が楽しめるジオパーク。

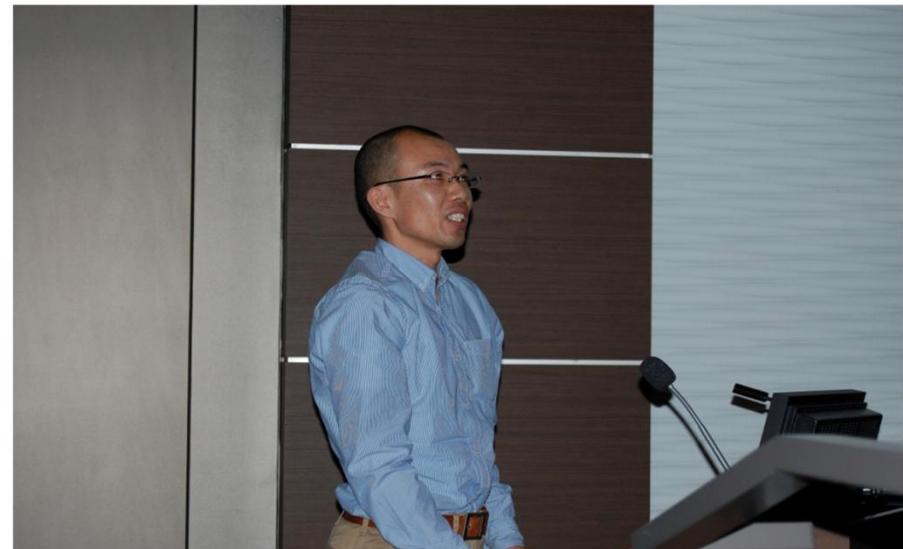
三笠ジオパークは「さあ、行こう！一億年時間旅行へ～石炭が紡ぐ大地と人々の物語」をテーマとしており、三笠全域に広がる6つのエリア、45個のジオサイトによって構成されています。

野外博物館では整備された散策路を歩きながら貴重な炭鉱遺産や、珍しい地層などを見学することができます。

帰りには、休憩がてら日本一のアンモナイト展示を誇る三笠市立博物館にお立ち寄りください。

道内ジオパーク紹介④ 【日本ジオパーク】 とかち鹿追ジオパーク

とかち鹿追ジオパーク推進協議会事務局 大西 潤さん



変化を続ける大地の記憶—火山と凍れが育む命の物語。

十勝平野北西部の鹿追町全域をエリアとする、とかち鹿追ジオパーク。ここでは、大地の活動や生き物たちの営みを四季それぞれの姿で楽しむことができます。

然別湖周辺の山々は、呼吸をしています。夏でも2度から3度の冷たい風を出す「風穴」と呼ばれる穴がボコボコいたるところに開いているのです。そして風穴の周りには、ナキウサギを代表とする多様な動植物が暮らしています。

とかち鹿追ジオパークの特徴は「しばれ」。今よりずっと寒かった時代の足あと。冬の寒さを活用したイベントと産業。四季それぞれの魅力がここにはあります。

道内ジオパーク紹介⑤ 【日本ジオパーク】 アポイ岳ジオパーク

かんらん岩から大地の変動を学び楽しむー地球深部からの贈り物がつなぐ大地と自然と人々の物語。

アポイとは「火の多い山」という意味です。「アペ」というのはアイヌ語ですけど、当時、昔アイヌの人たちの食料であった鹿の豊猟をあのアポイの頂上で火を焚いて祈った。だからここを「アペ・オイ・ヌプリ」火が多い山と。ですから火山という意味ではありません。

プレート衝突でマントルの部分が地上に出たとき、これをかんらん岩と言いますが、普通は地上に出ていません。地上に日本で一番大規模に出ているのがアポイとピンネシリのアポイ山塊なのです。ではなぜ出てきたのか。

それは北米プレートとユーラシアプレートが約4,000万年前にぶつかって、さらに1,300万年前に北米プレートが太平洋プレートの沈み込みに引きずられるようにユーラシアプレートに乗り上げて日高山脈をつくったのですが、その際にプレートの底にあったマントルのかんらん岩が押し上げられるような形で出てきたといわれています。

この様似町、小さな町でありながら、それぞれ多くの地質学者やあるいは岩石学者が訪れます。さらにはいろんな研究者、学生も訪れます。2002年、2003年、2004年、あるいはそれ以前、1999年からずっといろんな国際会議や研究会が様似町で開かれており、決して限界集落ではありません。国際会議が開かれています。

様似町アポイ岳ジオパーク 推進協議会 認定ガイド
水野 洋一さん



ジオパークにはいろんなものがありますが、美味しいものもあります。今、様似のほうで、日高で採れる布海苔が、非常に美味しいのです。

昔、この場所を、歴史学者であり有名な小説家、司馬遼太郎は自身の小説の中で様似のことを神々の国だと言いました。ぜひ神々の国にお出でください。

アンケート調査の結果について（抜粋）

ジオパークフォーラム参加者を対象に、ジオパークやこのフォーラムについてお尋ねするアンケート調査を実施した。参加者170名中、137名の方から回答を得た。

アンケート調査は、「本フォーラムへの参加のきっかけ」、「（アポイ岳）ジオパークに対する認知度」、「アポイ岳ジオパークの課題や展望」、「アポイ岳ジオパークへの提言」、「今後、どのようなフォーラムを希望するか」などをお尋ねするもので、アポイ岳ジオパークの今後の方向性を探るための参考とすることを目的として実施した。

アンケートの概要

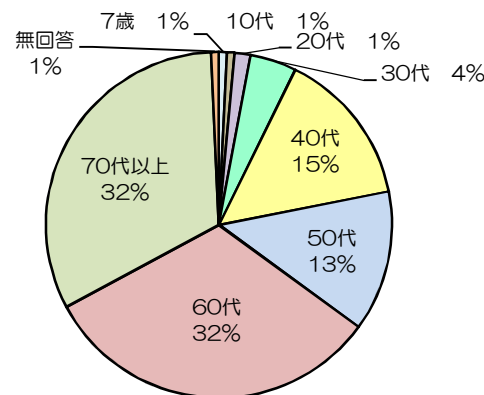
来場総数

170人

有効回答数

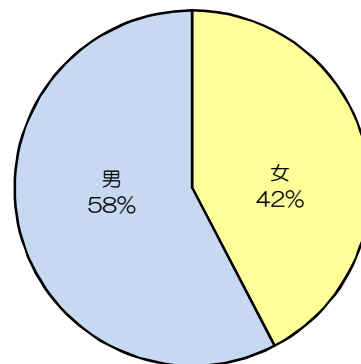
137件

【年 代】



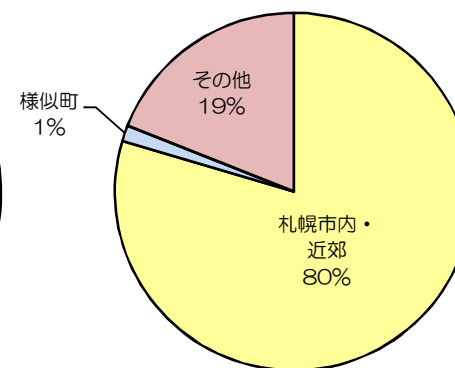
年齢層は「60代」と「70代以上」がともに32%で、両者を合わせて全体の64%。これに「40代」が15%、「50代」が13%と続いている。

【性 別】



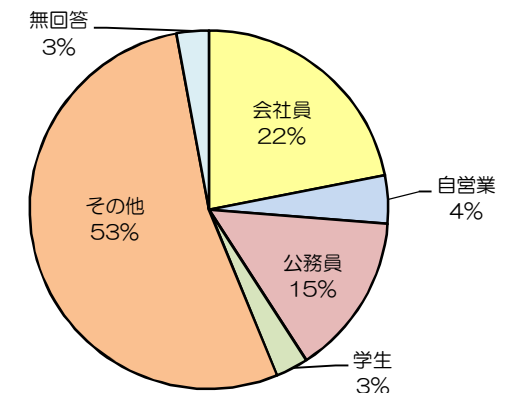
男女の比率では、「男性」が58%、「女性」が42%であった。

【住 所】



80%が「札幌市内・近郊」からの来場であり、その他の市町村からの参加では、日高地方からの来場者が15人と比較的多かった。

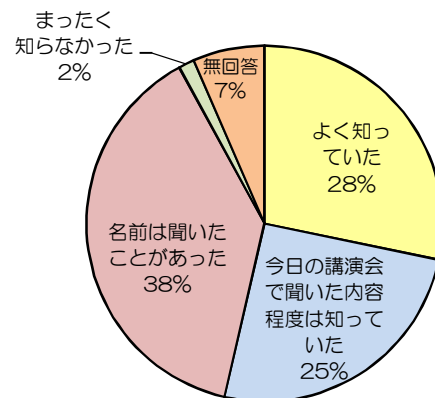
【職 業】



職業は、最も多かったのは「その他」で、これに次いで「会社員」が22%、「公務員」15%、「自営業」4%、「学生」3%と続いている。

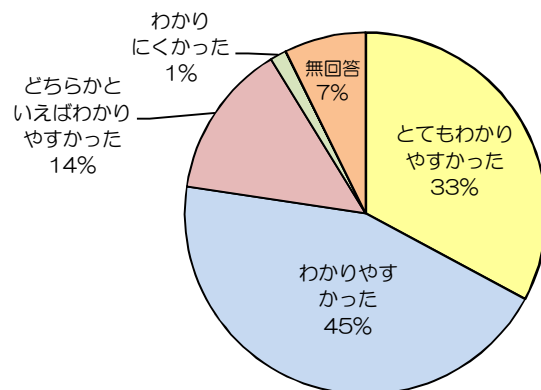
■ジオパークをどの程度知っていたか

「ジオパーク」については、28%が「よく知っていた」と答えており、「この講演会で聞いた内容程度は知っていた」の25%と合わせると、53%と過半数を占めた。このことから、もとより意識の高い参加者が多かったことが想定される。



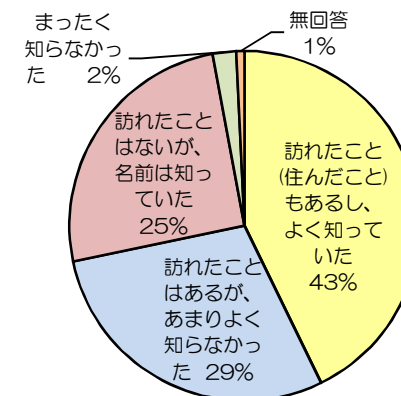
■フォーラムの内容はわかりやすかったか

フォーラムの内容については、33%が「とてもわかりやすかった」、45%が「わかりやすかった」と答えており、両者を合わせると78%で、8割近くの参加者がフォーラムの内容について一定の理解を得たといえる。



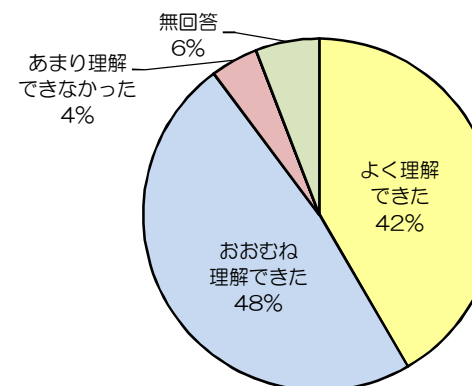
■アポイ岳ジオパーク（様似町）をどの程度知っていたか

「アポイ岳ジオパーク」については、43%が「訪れたこと（住んだこと）もあるし、よく知っていた」と答えている。「訪れたことはあるが、あまりよく知らなかった」と答えた29%と合わせると、72%の人が「訪れたこと（住んだこと）がある」ことになる。

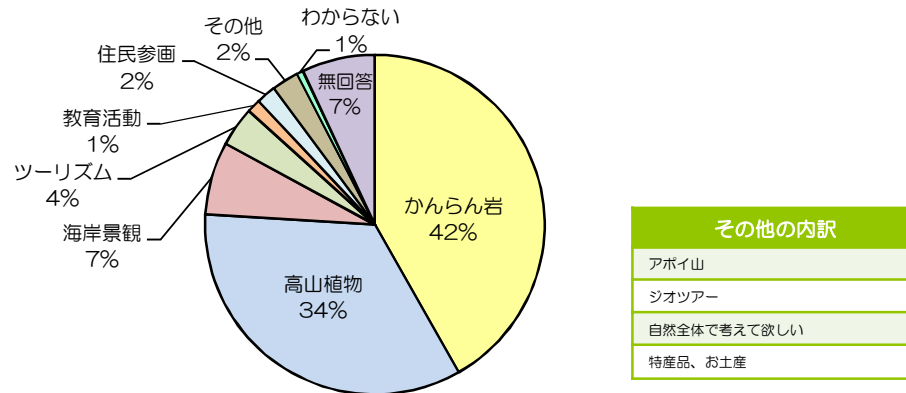


■フォーラムでジオパークやアポイ岳の理解が深まったか

「ジオパークやアポイ岳のことがよく理解できた」とする回答が42%、「おおむね理解できた」が48%で、合計90%。ジオパークやアポイ岳に対する市民の理解促進に貢献したことが確認された。

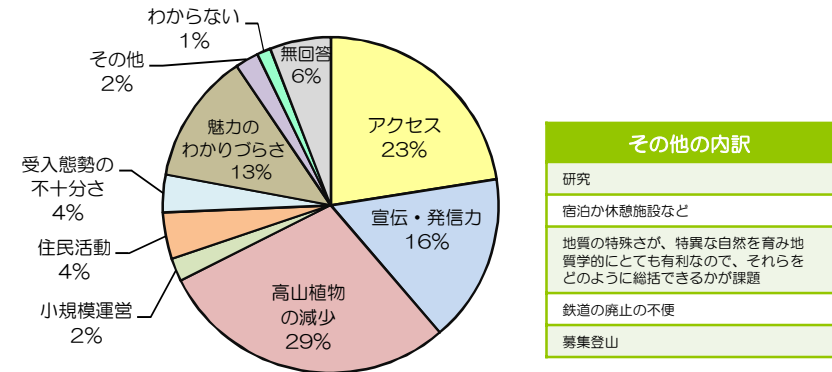


■アポイ岳ジオパーク（様似町）のアピールポイント



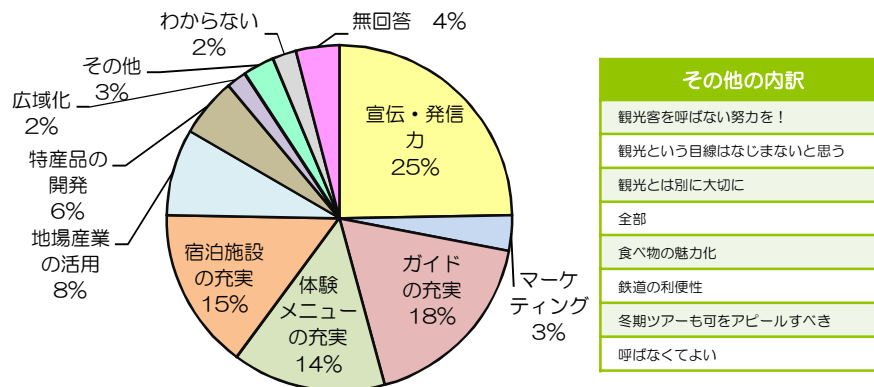
アポイ岳ジオパークのアピールポイントとして最も多かった回答は「かんらん岩」で42%、次いで「高山植物」の34%。

■様似町におけるジオパークの課題（複数回答）



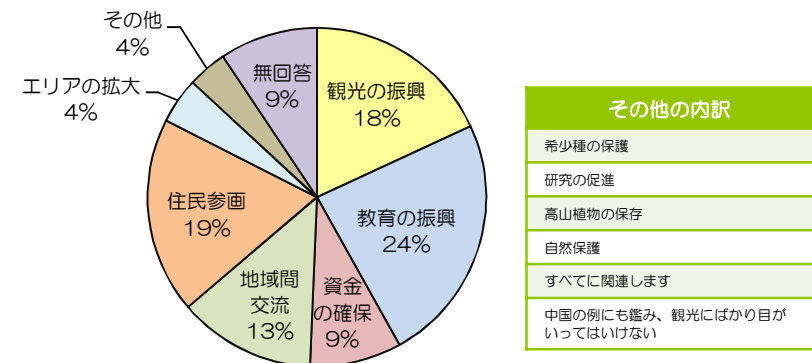
様似町におけるジオパークの課題としては、回答が多岐にわたっているが、問6でアピールポイントにあげた「高山植物」の減少を指摘する回答が64人と最も多数であった。

■観光客を呼び込むために必要なこと（複数回答）



アポイ岳ジオパークが観光客を呼び込むために必要なこととして、複数回答で聞かれたところでは「宣伝・発信力」をあげる回答が最も多く67人。次いで「ガイドの充実」48人、「宿泊施設の充実」41人、「体験メニューの充実」39人。

■今後の歩みの中で最も必要なこと



様似町にとってこれから最も必要なものとしては、「教育の振興」が最も多く38人。以下、「住民参画」30人、「観光の振興」29人と続く。なお、少数意見ではあるが、「観光」という観点からの議論で意見を訴える回答も見られた。

アポイ岳ジオパークへの提言（自由記載） （51件の回答より抜粋）

カンラン岩の特質など理解できない面がある（発信が必要）。地域振興（観光）の取り組みが重要である。楽しめるジオパークづくりをめざして下さい。
1にも2にも宣伝・発信力。 ガイドの充実。
アポイ岳だけではなく、道内のジオパークと連携することによってアポイ岳のみではなく各地のジオパークが良くなっていくのではないかと思います。
昨年初めて登った時、すれ違う登山者が近年花がとてま少なくなってきたと話されていました（期待したほど花はありませんでした）。保全活動。大変ですが自然を守っていただきたいです。
1町で、この人口で世界ジオパーク推薦を得られたことは、地域にある資源のユニーク性はもちろんですが、住民や関係者の皆様の熱意と努力の結果だと思います。すばらしいですね。応援しています！ブログやホームページのこまめな更新もよいと思います。
高山植物については知っていましたが、何故アポイ岳では特有の種が多いかは知りませんでした。花を見に登山される方も多いので、かんらん岩と植物との関係もわかるようにすると理解が深まるのではないのでしょうか。

《アポイ岳ジオパークへの提言について》

コメントの多くは【問6】～【問9】への回答とリンクした内容のものであり、回答者の多くがかんらん岩や高山植物をアポイ岳の大きな魅力として捉えていることがわかった。

そうしたアポイ岳の魅力を積極的に発信すべきである、また発信してほしいという希望の声が多く寄せられた。

高山植物の減少を危惧するコメントもいくつか寄せられた。

今後、どのような内容のフォーラムを希望するか （25件の回答より抜粋）

アポイ岳の認識度を高め、日高山脈との関わり、植生動物の認識、誰もがどの面から接しても愉しめる自然環境での体験を希望する。
アポイの地学的要素を多く含むもの。
超塩基性岩地帯の植生と変性の関係。超塩基性岩とは何か、どのような意味を持つのかについてのフォーラム等、面白いと思いませんか。
現地で見学体験を兼ねた、目で見て触れられるようなものを希望します。
大人ばかりでなく子供向けもいいのでは？
今回の様に北海道内のジオパーク紹介や、北海道ジオパーク大会があれば良い。
ジオパークガイド。おもしろかったのでこれからもこういったフォーラムを。
（中略）アポイ岳ジオパークの個性の異なる認定ガイドさん数名にエリア別に話していただければ、アポイ岳ジオパークの魅力を広く伝えられて、そこに行ってみたいとより感じられると思いました。

《今後、どのようなフォーラムを希望するかについて》

より学術的な面に踏み込んだ内容のフォーラムや、子供にも理解しやすいフォーラムを期待するコメントがいくつか見られた。

道内5カ所のジオパークからの発表（バーチャルジオツアー）の評価が高く、このような形で紹介に一定の発信力があることが認められたのではないかと思われる。

アンケート結果のまとめ

アンケートの概要

来場総数	170人
有効回答数	137件

回答者の属性	年齢層は「60代」と「70代以上」を合わせて全体の64%、これに「40代」が15%、「50代」が13%と続いた。男女の比率では、「男性」が58%、「女性」が42%であった。
	参加者の80%が「札幌市内・近郊」からの来場であり、その他の市町村では、日高地方からの来場者が15人であった。
	職業は、最も多かったのが「その他」で53%、次いで「会社員」22%、「公務員」15%、「自営業」4%、「学生」3%と続いた。
フォーラム参加のきっかけ、ジオパークの認知度等について	フォーラム参加のきっかけ（複数回答）については、「新聞等」が23%、「チラシ」16%、「ホームページ等」12%、「DM」9%と分散した。「その他」39%のうち、半数近くはいわゆる「口コミ」による参加であった。
	ジオパークについて「よく知っていた」（28%）と「この講演会で聞いた内容程度は知っていた」（25%）の合計が回答者の過半数を占めたことから、もとより意識の高い参加者が多かったものと思われる。
	「アポイ岳ジオパーク」について、「訪れたこと（住んだこと）もあるし、よく知っていた」（43%）と「訪れたことはあるが、あまりよく知らなかった」（29%）を合わせると、72%の人が「訪れたこと（住んだこと）がある」ことになり、このことから、ある程度の予備知識や経験値を持った参加者が多かったことが想定される。
フォーラムの内容について	フォーラムの内容については、「とてもわかりやすかった」（33%）、「わかりやすかった」（45%）の合計が78%で、回答者の約8割がフォーラムの内容について一定の理解を得たと考えられる。
	「ジオパークやアポイ岳のことがよく理解できた」（42%）と「おおむね理解できた」（48%）の合計が90%。本フォーラムがジオパークやアポイ岳に対する市民の理解促進に貢献したことが確認された。
アポイ岳ジオパークの課題や展望について	様似町におけるジオパークの課題として「高山植物」の減少を指摘する回答が64人と最も多く寄せられた。（複数回答）
	アポイ岳ジオパークが観光客を呼び込むために必要なこととしては「宣伝・発信力」（67人）をあげる回答が最も多く、次いで「ガイドの充実」（48人）、「宿泊施設の充実」（41人）、「体験メニューの充実」（39人）と続く。（複数回答）
	様似町にとってこれから最も必要なものとしては「教育の振興」（24%）が最も多く、以下「住民参画」（19%）、「観光の振興」（18%）と続いた。「観光」という観点からの議論に疑義を訴える回答も少数ながら見られた。
アポイ岳ジオパークへの提言	回答者の多くがかんらん岩や高山植物をアポイ岳の大きな魅力として捉えていることがわかった。また、そうした魅力を積極的に発信すべきである、また発信してほしいという希望の声が多く寄せられた。
今後、どのようなフォーラムを希望するか	より学術的な面に踏み込んだ内容のフォーラムや、逆に子供にも理解しやすいフォーラムを期待するコメントがいくつか見られた。道内5カ所のジオパークからの発表（バーチャルジオツアー）の評価が高く、このような形での紹介に一定の発信力があることが確認できたと思われる。

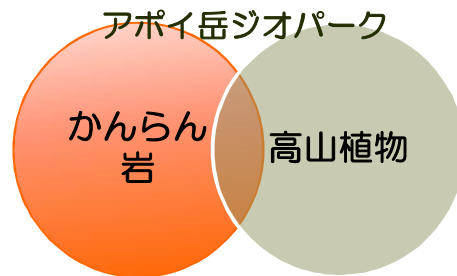
調査結果の取りまとめ

本調査の結果を踏まえ、地域資源を利活用した地域の活性化についてポイントを整理した。

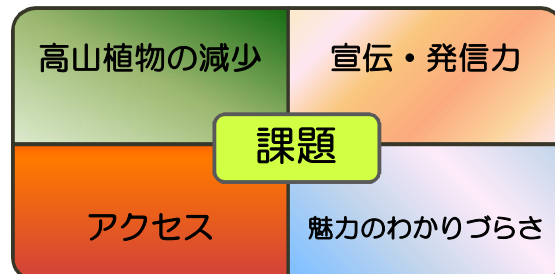
本調査の対象地域、様似町はアポイ岳ジオパークという貴重な地域資源を有するが、その魅力のわかりづらさによる宣伝・発信力不足やガイド・宿泊施設等の受入環境整備不足、また、アクセスの不便さ等、多くの課題を抱えている。一方、今回のフォーラムでは、道内5ジオパークの地元ガイドによる「ジオパーク紹介」が大変好評で、このような発信の仕方により一定の効果があることが確認できた。

今後、この地域が活性化していくためには、上手に地域資源を磨き上げ地元の魅力をアピールできる地元の人材を育成し、アクセスが悪くても訪れたいような魅力ある地域へと変えていくとともに、ガイドや宿泊施設等の受入環境を総合的に整備しつつ、宣伝・発信を継続して行っていけるかがポイントである。官民連携で今回のフォーラムのような発信の場（機会）づくりを、また地域間で連携し観光振興に繋げていくことで地域を活性化させていくことが可能になると考えられる。

■アピールポイント（地域資源）



■様似町におけるジオパークの課題



様似町にはかんらん岩や高山植物といった地域資源がありながら、それらの魅力はわかりづらく、上手に宣伝・発信には至っていない状況。

地域活性化へ向けた今後の方向性

宣伝・発信力の強化

- ・教育の振興
- ・地域住民の参画
- ・地域間連携



受入環境の整備

- ・ガイドの育成
- ・宿泊施設の充実
- ・体験メニューの充実

観光振興・
地域活性化